

校長室だより

No. 7

平成27年5月22日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず
加藤嘉一

行事で育てるⅡ ー郷土を愛する心をはぐくむー

体育祭予行を水曜日に実施しました。学年演技などが見違えるように上手になっています。特に立派になったのが行進です。「あれだけばらばらだった行進が、こんなにも学級ごとにまとまってきたなんてすごい！」と感動します。当日だけではなく、成長の瞬間が見られる教師としての幸せを感じました。

予行を終了して、本校の体育祭は、自慢できる体育祭だと確信しました。どの学年も走ることやチーム対抗種目と学年演技など、他の学校より出番が多くあり、子供はとても楽しんでます。さらに何といても伝統競技「竹馬・一輪車でダッシュ！」がいい。保護者の方々からも竹馬の話はよく聞きました。今回でも、竹馬種目に出たいという子供や、お気に入りの竹馬がある子供など、やりこんでいる本校の子供でしかないことです。「小学生のとき、体育祭で竹馬の選手で出場してね」「竹馬・一輪車レースは大盛り上がりなんだよ」将来ここを離れることがあっても、こんなことを話す大人になってほしいと思います。郷土を愛する子供を育てるとはこういうことではないでしょうか。



明日の体育祭が、一人一人の子供の心に残る大切な行事になりますように。

地域教育ボランティアシステム開始

校長室だよりのNo.3で書かせていただいた「地域教育ボランティア」を、いよいよ始めたいと思います。(別紙 「六ツ美中部小学校地域教育ボランティア(仮称)」の募集について」参照)

まずは、すぐにでもほしい右下のようなボランティアを募集します。

「自分の子供はいない学年だけどお手伝いしますよ」

「親ではなく、おじいさん・おばあさんだけど行きますよ」

こんな方大歓迎です。時間があるときだけで構いません。子供の学校での頑張りのためにお助けいただけませんか？ 今後は、ボランティア通信を随時発行したいと思います。

- プール監視補助ボランティア
- 下校時付き添い補助ボランティア
- 花育・畑ボランティア
- 5年家庭科裁縫(玉どめ、ミシンなど)補助ボランティア

走（先週の詩のつづき）

ビリッコの女の子をみていると
わたしの娘のことが思い出されてくる
毎秋 毎秋
生死のさかいをさまよわねばならなかった娘
その度に
何十本のリンゲル注射
何百本の注射を幼いももにうち込まれた娘
小学校にはいるようになって
病気からは解放されたが
そのかわり
運動会の「走」のたびごとに
みんなから何十メートルもおくれて
ドタン ドタン
走らねばならなかった娘
女の子として
大ぜいの注視の中で
どんなにか悲しかったことだろう
みている親の胸は
自分がビリであった日の心の痛みの何層倍も 痛かった

あの女の子のおかあさんが
ひよっとして
あの泰山木の木の陰におられるのではないだろうかと思うと
娘の走をみているように
胸が痛んでくる。
しかし
ビリの経験は
私にはムダではなかった
娘にとっても
ムダではなかった
ビリがビリになりにはビリのわたしの生きがいを育ててくれたし
娘にも 娘の人生を育ててくれた
どうか
ビリの男の子よ
ビリの女の子よ
ビリの悲しさをくぐらねばつかめぬ宝をつかんでおくれ。

【東井義雄著作集 別巻3 培其根 下 より】